

早稲田大学 商学部 世界史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	出題形式・量ともに例年と変化はない。去年は100字だったが論述は、150字になった。空欄補充は例年になく難しく、全体に難化した。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
[I]	古代文化史	文化史は例年、細かい正誤判定が目立つが、この問題の問題は正誤のポイントがとらえやすく、あとは知っているかどうかである。ヒジュラ暦の1年は戸惑った人も多かったろう。	標準
[II]	経済と貿易からみた中国	四択問題は標準的だが、正誤判定の文章に読みにくいものがある。問Kはガレオン交易をよく知っていれば一本釣りが可能だが、そうでないと厳しい。問Lのジャーディン＝マセソン商会は政経で05年に出ていた。	やや難
[III]	ローマ＝カトリック教会の歴史	問Aは手に負えない内容。「当時の人々が是認」すること自体が初耳というのが当たり前であろう。問Gでは「16世紀最大の人文主義者」というフレーズを想起できれば楽勝。	一部難
[IV]	ウィーン体制	四択問題は標準的。問Eのノルウェー関係は難しい。ノルウェーは1940年に独に占領されている。ノーベル賞というとスウェーデンと早とちりしないこと。平和賞はノルウェー議会が選考し、授賞式はオスロ市庁舎で行われる。問Jのシュレスヴィヒ・ホルシュタイン問題は早大の頻出項目。	標準
[V]	現代国際経済	空欄1の「輸出指向」は世界史というより、経済一般教養というべき出題。用語集などには一切出ない言葉。しかし、文脈からせめて「輸出」の2文字は書いておきたい。空欄2の韓国のOECD加盟、続いて空欄3のIMFも難しい。そして空欄10の「北米自由貿易協定」もなかなか入らないだろう。	難

番号	出題内容	コメント	難易度
		<p> 昨年の論述はN I R Aについて100字だった。今年のプロック経済と地域経済統合はかなり近いテーマである。その違いは大きく2つある。1つは恐慌対策であるかないか。もう1つは閉鎖的で国際緊張(つまりところ大戦)を招くか、開放的で国際協調を促進するかである。150字という枠を考えると両方は論じられないのでどちらかといえば、後者を選んだ方がまともはいい。 </p>	

[総合コメント]

例年のことだが、正誤判定の文章に読みづらいものが多い。問Ⅰはいいが、問Ⅱ・Ⅲ・Ⅳとくどくて読みづらく、読み返してもなかなかポイントが見えてこない。そして消去法も有効でない。あわてずに慎重を期するしかない。Ⅴの現代国際経済は難しかった。しかし、九竜半島・ポルトガル・一国二制度以外全滅という人と、ある程度は得点できた人に分かれたろう。韓国関係は、今年の朝鮮半島は危ない(政治的・軍事的、そして出題という観点からも)という意識をもって、それなりの準備をした人には難しくなかったはず。論述は、一昨年が「ブレトンウッズ体制」、昨年が「N I R A」で、これで3年連続で現代経済から出題された。ここまで続くと、現代史の経済関係はとことん警戒する必要に迫られる。ただ、あまり絞るのは危険なので、19世紀の経済政策・経済思想も視野に入れておくべきだろう。論述のブロック経済と地域経済統合の違いなど、用語の表面的理解では対処不可能なテーマである。こういった問題に普段から興味をもって、一家言をもつくらい的心構えが必要である。大げさなようだが、天下の早稲田で商学をめざすのだから、それくらいの気概を持ちたい。